

## ----自然との対話----

所属：<sup>たちした</sup> 館下コンサルタンツ(株)  
氏名： 藤木 良一  
部門： 建設



### 北陸支部

略歴  
1962年生れ  
富山県出身  
趣味：歴史探訪  
抱負：技術者だから  
こそ可能な社  
会貢献を実現

早いもので学生時代のアルバイトがきっかけで、その面白さが講じ、建設コンサルタント会社に身を投じて25年が過ぎました。その間、技術士資格を取得し、幅広い業務に携わることができ、微力ながら社会基盤への貢献が果たしているのではないかと考えております。

さて、社会の安全・安心について、多種多様な方面からのアプローチが行われているところがありますが、建設分野として、その要因である自然災害の事例及び対策をここに紹介し、それを踏まえて技術士の役割を述べたいと思います。

### ○事例及び対策（場所：富山県）

#### 国の重要文化財：白岩砂防えん堤（提高63m）



#### 【概要】

安政5年（1858年）2月の地震により立山カルデラ外輪山の一部である大鷲、小鷲の両山が崩壊。崩壊した土砂量は4億1000万m<sup>3</sup>と推定されている。

以後、度重なる洪水により甚大な被害が発生。明治24年（1891年）ヨハネス・デレーケにより調査。明治37年（1904年）より砂防調査に着手し、大正15年（1926年）国の直轄事業となり今日に至る。

地震発生から150年、砂防調査着手より100年あまりに渡り事業が継続されており、立山カルデラ出口に建設された「白岩砂防えん堤（昭和4年着工同14年完成：第7副ダムまで含めた総高が約108mであり日本一の高さを誇る）」は、平成21年（2009年）4月17日に国の重要文化財に認定されている。

### ○青年技術士としての役割

このように立山カルデラを代表とする大規模な自然イベントに向き合っている今日です。

昨今、公共事業が縮小され、建設分野が非難を浴びている中ではありますが、歴史を振り返れば、必ず起こるであろう自然災害（地震・台風・火山活動及び近年多発している局所的な豪雨、地すべり等の想定できない災害）に対して恐れることなく、経験（諸先輩の意見等）を生かし、自己研鑽し、自然の驚異に畏敬の念を抱き、自然との対話ができるような技術者でありたいと思います。